

御製 五首 平成二十八年

第六十七回全国植樹祭

山々の囲む長野に集ひ来て人らと共に苗木植ゑけり

第三十六回全国豊かな海づくり大会

鼠ヶ関の港に集ふ漁船海人びと手を振り船は過ぎ行く

第七十一回国民体育大会開会式

大いなる災害受けし岩手県に人ら集ひて国体開く

平成二十八年熊本地震被災者を見舞ひて

幼子の静かに持ち来し折り紙のゆりの花手に避難所を出づ

満蒙開拓平和記念館にて

戦の終りし後の難き日々を面おだやかに開拓者語る

御製 五首 平成二十八年

第六十七回全国植樹祭

山々の囲む長野に集ひ来て人らと共に苗木植ゑけり

天皇后両陛下は、本年六月、全国植樹祭御臨場のため、長野県においてになりました。この御製は、その折にヒノキ、ウラジロモミ及びコウヤマキの苗木をお手植えになったときのことをお詠みになっています。

第三十六回全国豊かな海づくり大会

鼠ヶ関の港に集ふ漁船海人びと手を振り船は過ぎ行く

本年の全国豊かな海づくり大会は、九月に山形県で開催されました。海上歓迎行事及びご放流行事の会場となった鶴岡市鼠ヶ関港において、山形県内の様々な漁法を行う漁船が天皇后両陛下や列席者の前を通って沖へ向かったときのことをお詠みになったものです。

第七十一回国民体育大会開会式

大いなる災害受けし岩手県に人ら集ひて国体開く

本年九月末から十月にかけて、天皇后両陛下は、東日本大震災からの復興状況御視察と国民体育大会御臨場のため、岩手県を訪問されました。被災三県では大震災後初めて開催される国体で、犠牲者に対する黙とうが始まる開会式のことを詠まれた御製です。

平成二十八年熊本地震被災者を見舞ひて

幼子の静かに持ち来し折り紙のゆりの花手に避難所を出づ

天皇后両陛下は、本年五月、前月の地震で大きな被害を受けた熊本県をお見舞いになりました。この御製は、益城町にて、避難所となっている益城中央小学校の体育館をお見舞いになった折、小学生の女兒から色紙で作った百合の花束を受け取られたときのことを詠まれたものです。

満蒙開拓平和記念館にて

戦の終りし後の難き日々を面おだやかに開拓者語る

天皇后両陛下は、本年十一月、長野県阿智村にある満蒙開拓平和記念館をご訪問になり、満蒙開拓に従事し戦後現地で、また、引き上げの途次で過酷な苦勞を味わい、現在は同館で語り部を務める人らと懇談されました。この御製は、今は穏やかな面差しで当時のことを語る人々に思いを寄せられ、お詠みになっています。

皇后陛下御歌

三首

平成二十八年

一月フィリピン訪問

許し得ぬを許せし人の名と共にモンテルパを心に刻む

被災地 熊本

ためらひつつさあれども行く傍かたはらに立たむと君のひたに思おぼせば

神武天皇二千六百年祭にあたり
橿原神宮参拝

遠つ世の風ひそかにも聴くごとく櫛の葉そよぐ参道を行く

皇后陛下御歌 三首 平成二十八年

一月フィリピン訪問

許し得ぬを許せし人の名と共にモンテナルパを心に刻む

本年一月のフィリピン国御訪問の折、天皇后陛下は、エルピディオ・キリノ元大統領の子孫にあたる人々とお会いになり、感謝のお気持ちを伝えになりました。先の大戦で妻子四名を失った同大統領が、それにもかかわらず、戦後、モンテナルパ刑務所に収容されていた日本人戦犯百余名を恩赦し、帰国を認めたときのことをお思いになってお詠みになっています。

被災地 熊本

ためらひつつさあれども行く傍^{かたは}らに立たむと君のひたに思^{おぼ}せば

天皇后陛下は、熊本地震の発生した翌五月に熊本県を御見舞いになりました。被災地に向かわれるその都度、このような状況下にある人々を、果たして自分などが見舞うことが出来るだろうか、という恐れに近いためらいを持たれつつ、それでも「人々の傍らに」とお思いになる陛下のひたむきなお気持ちに添い、被災地をお訪ねになるお心のうちをお詠みになっています。

神武天皇二千六百年祭にあたり
橿原神宮参拝

遠つ世の風ひそかにも聴くごとく櫛の葉そよぐ参道を行く

本年四月、天皇后陛下は、神武天皇二千六百年式年祭の年にあたり神武天皇陵を御参拝になるとともに、神武天皇をお祀りする橿原神宮を御参拝になりました。この御歌は、ふと遠い歴史の彼方から吹いてくるひそやかな風の音を聞くようなお気持ちで、櫛の葉のそよぎを聞かれつつ参道をお進みになった際のことをお詠みになっています。